

31. 桑津ハートフレンド

所在：桑津5丁目13-48

「子ども達が、地域の中で安心してのびのび遊べる場所がほしい」これはすべての親の願いです。

平成13年（2001年）、桑津小学校の北側に、仮設消防署が建ちました。

地区の消防署が建て替えられることになったからです。

1年後、仮設消防署跡の建物を「子ども達のために使わせてほしい」という桑津連合振興町会の申し入れに、大阪市の協力を得て平成15年（2003年）6月に開所しました。

「桑津こどもの家 ハートフレンド」と名付けました。

「子どもたちの心地よい居場所になり、子どもたちにさまざまな経験をしてほしい」という願いがけない、15名の母親が集まり活動を始めました。運営はボランティアが中心となり、図書室の書籍の寄贈など、備品はほとんど地域の方々から寄付されたものです。

「親として子ども達にどのようにすごしてほしいか、どうしたら楽しい子育てができるか、どうしたら私たち親も幸せか、そして、私たちの地域を思う気持ちをどうすればもっと育てられるか」ということを考える中で生まれた15の活動を行いながら、子どもの居場所づくりに取り組んでいます。

仮設消防署跡の活用が終了し、平成25年（2013年）4月に新しい場所に移り、その後、

平成28年（2016年）10月より、桑津5-13-48に移って活動を展開しています。



32. 桑津墓地

所在：北田辺 1 丁目 8

榎神社境内にある桑津墓地には、行基菩薩の開基との伝承があります。

ただ、行基年譜をみると、行基自身がこの地で布教活動をした事実を検証できませんので、その弟子達が行基の名を借りて布教活動をしたものではないかと思われます。（行基由来の伝承については、事実が検証できておらず、異なる伝承もあります。）

北田辺村と桑津村の葬祭や斎場として存続し、現在 600 基ほどの墓碑があり、桑津墓地維持会が整備管理をしています。

なお、この場所の字名が大塚であり、地形も小高くなっているため古墳があったと言われています。古来から古墳の周辺には墓地が造られますので、うなずける伝承地です。

墓地の北東部・榎神社神殿西側辺りが昭和 7 年（1932 年）まで使われていた大斎場の跡地であり、棺を安置し、住職が引導法要をした「蓮花台（ウテナ）」石がその傍らに保存されています。

墓域の南西角にある「天王寺地区区画整理記念碑」は、昭和 3 年（1928 年）2 月にこの辺りを区画整理した記念に昭和 6 年（1931 年）2 月に建立されました。



榎神社正面
奥に桑津墓地の入り口があります



33. 国道 25 号(通称奈良街道)

所在：桑津 1 丁目～杭全 8 丁目



国道26号 杭全交差点 右・八尾 左・今里方面



国道26号 杭全交差点 中央・寺田町 右・今里方面

【上写真】

杭全交差点を北西側から撮影
右 八尾・左 今里方面

【下写真】

杭全交差点を南東側から撮影
中央 寺田町・右 今里方面

古代から近世を通じて奈良は重要な都市でした。現在、国道 25 号と呼ばれる道は大坂と奈良を結ぶ奈良街道でした。途中には中世の大都市平野がありました。大坂に石山本願寺が出来、大坂が都市として形成されてゆくと奈良街道の重要度も高まりました。大坂の陣では奈良から大坂へ攻め入る東軍と、迎え撃つ真田幸村らの西軍が往来し、街道沿いの桑津なども戦場となっています。

(大阪・京都と奈良を結ぶ奈良街道と呼ばれている道は、ほかにもあります。)

・ 起点：(三重県四日市市)－奈良－柏原－平野区－東住吉区－阿倍野区－天王寺区－浪速区－
終点は大阪市北区の梅田新道交差点 (終点は大阪市中央区と記述されている場合が多い)、

・ 全長：144.5km

天理以東では西名阪と重複しているところがあります。奈良県内で国道 24 号と交差しています。梅田新道(北区)－浪速区までは国道 26 号・165 号と重複、梅田新道(北区)－東住吉区－柏原市までは国道 165 号と重複しています。

・ 東住吉区内では、国道 25 号は杭全交差点で、今里筋と交差して居り美章園方面への道路とも交差して五叉路となっていて、近くに横断歩道が無いので、5 角形の歩道橋が設けられています。



昭和 38 年(1963 年) 関西本線杭全町踏切

34. 駒川

所在：鷹合 4 丁目～桑津 1 丁目



大和川付替反対陳情書に引用された「大和川^{かいさく}開鑿地方図」によれば、駒川は狭山池の水を一時滞留させる^{とどろきいけ}轟池（堺市北野田）を源流とし、西除川に並行して北進する川と^{よさみいけ}依羅池（※）を源流とする川が合流した水路で、古くは高麗川（巨摩川）と呼ばれていたことから、沿岸に百済や新羅からの渡来人が住み着いたことに由来すると言われてい

ます。現在の人工水源の近くに、^{たかひ}鷹合神社があり、ここには日本書紀の^{おうじん}応神天皇 43 年 9 月条があり、百済系渡来人の酒君に^{よさみのみやけあびこ}依羅屯倉阿弭子^{あみこ}が献上した鷹の飼育を命じた伝承があるので、沿岸地域に「鷹合わせ＝鷹狩」が得意な百済系渡来人が定着していたことが想定

できます。また、架ける橋の名前も「百済大橋」「酒君塚橋」「鷹匠橋」「鷹合橋」があり、この伝承に因んだものと考えられます。

水源の天野川や依羅池が大和川付替の際に分断され、雨水の溜池となった依羅池の水によって細々と流れていた駒川は、昭和 50 年（1975 年）頃の埋立てにより水源を失い、

現在は今川と同様に大阪市平野下水処理場での^{すなろか}砂濾過された高度処理水を受けて、人工

的にその流れが維持されています。一級河川ですが、大阪市の工営所が管理を委託されているのは、今川と同様です。

※依羅池

現在の住吉区庭井 1 にある^{おおよさみじんじや}大依羅神社南側の狭山池に匹敵する広い池がありました。

狭山池と同様に、天野川を源流とし、大変浅い遊水池（1-2m 位）で、保有水量は狭山池より遙かに劣りますが、駒川の他に、長池や桃ヶ池を結ぶ長池筋（猫間川）や、西に向かう細江川の源流となっています。日本書紀の^{すじん}崇神天皇の 62 年 10 月条や、古事記（崇神記）にはその建造の記録があり、3 世紀中頃の成立と思われますが、考古学的には 5 世紀中頃（允恭や安康天皇の頃）で、狭山池よりも 150 年速く開削された（「依網池付近の微地形と古代における池溝の開削」日下雅義）と考えられています。

宝永 2 年（1705 年）の大和川開削により、当時 10 万坪もあり、昭和大改修時の狭山池の面積に匹敵する大池の南 2/3 が川底や河川敷となり、北側の 1/3 の 32,700 坪が残されましたが、川が低い位置にあったので、水を引くことができず、雨水の溜め池となって、本来の水田用水池としての機能を次第に失っていきました。

昭和 50 年（1975 年）頃に最後に残っていた仁右衛門池も区民や阪南高校の運動場として埋め立てられ、依羅池は完全にその姿を失いました。

35. 駒川商店街

所在：駒川4丁目～5丁目

(1) 第2次世界大戦前の昭和10年代（1935年～1944年）

大阪市の市街地拡大政策に伴って住宅が建ちはじめ、商店もぼつぼつ出はじめました。また昭和18年（1943年）4月には住吉区から分離し、東住吉区となりました。

(2) 太平洋戦争とその直後の昭和20年代（1945年～1954年）

大阪大空襲を免れた東住吉区に、市内の被災者が流入し、人口が急増しました。商店会も発展し、中野市場（昭和5年（1930年）設立）の発展に伴い鷹合商店会も設立され、戦後の発展期を迎えました。

敗戦直後は闇市も加わり、^{ふおんけん}不^ふ穩^{おん}健^{けん}な勢力争いが発生したが、物資が豊富に出回ってくると、闇市は姿を消し、健全な市場となり、駒川銀座商店会と駒川中商店会（昭和28年（1953年）4月）、針中野駅前商店会（同5月）、センター駒川商店会（同8月）、日之出商店会（昭和29年（1954年）5月）、駒川南商店会（同10月）などが相次いで設立されました。

(3) 昭和30年代（1955年～1964年）のスーパーマーケット進出期と駒川商店連合会の設立

人口増加と近鉄針中野駅周辺を中心に商店数が増加しました。また、市場の^{ようらん}揺^{よう}籃^{らん}期には商店街の協力により、大型店（サカエ、銀ビル、ニチイ、イズミヤ、万代百貨店等）が続々と進出し、区外からの多数の買物客が針中野駅を乗降しました。当時は商店と大型店との関係はコバンサメの状態、共存共栄が達成されていました。

昭和32年（1957年）6月には、北は南海平野線駒川駅から南は鷹合市場まで総延長1km余り、11の商店会を結ぶ「駒川商店連合会と駒川駅前商店街振興組合」が設立されました。晴雨や四季の気象変化に関わらず、常に購買客で満ちあふれる商店街を実現すべく、商店街を一貫する空調や放送施設完備のアーケードの建設が企画されました。

（画像説明）昭和38年（1963年）の駒川商店街



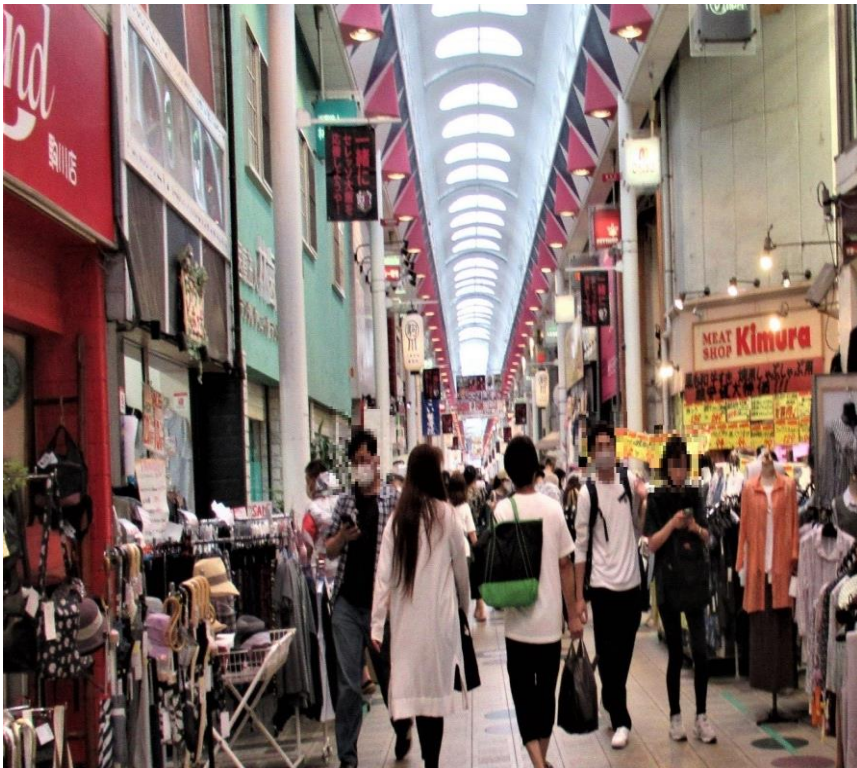
（次ページへ続く）

(4)昭和 40 年（1965 年）以降、今日に至る商店街の^{せいすい}盛衰

近鉄南大阪線と南海平野線沿線の買物客が加わって、東住吉区全域に限らず、南大阪一円の購買力を集約し、昭和 40 年（1965 年）6 月には駒川商店街振興組合が設立されました。

しかし、近鉄沿線の大阪郊外にも衛星都市が発展し、各地で郊外型の超大型スーパーが続々と建設されるに至って、沿線の購買客は減少し始め、商店街の力も次第に弱ってきました。このような大型店の郊外化が進むと、ダイエー、サティー、いずみや等の既存のスーパーも相次いで撤退し、商店会員との共存共栄の関係がなくなり、時代の流れを痛感するところであります。

地域密着型の商店街として、最近では店舗数も増え、様々な工夫をこらしています。



現在の駒川商店街



36. 五輪橋橋詰めの塚

所在：桑津 4 丁目 1 2 - 3 1

寺社・史跡・伝承

桑津 3 丁目付近の駒川にかかる橋には、「五輪橋」と命名されています。橋の名前にもなっているこの五輪塔は大阪夏の陣の際、元和 2 年 (1616 年)、平野と共に奈良街道に沿った桑津も激しい戦場になり、ここで亡くなった二人の武将を供養したものです。

江戸城留守居役として動けなかった^{しずがたけ}賤ヶ岳の七本槍で有名な^{ふくしまさのり}福島正則(※)に替わって、侍大将の^{しばたごんじゅうろうまさとし}柴田権十郎正俊が豊臣方に付き、徳川方に味方した^{はちすかくろうえもん}蜂須賀九郎右衛門とこの地で闘い、九郎右衛門の首を討ち取るが、自らも重傷を負いこの地で自刃しました。住民が二人の供養をし、二つの五輪塔を建立しましたが、一基(九郎右衛門の墓)は行方不明となっています。



※ 福島正則(永禄 4 年～寛永元年 (1561 年～1624 年))
母が秀吉の叔母に当たる関係で幼い時から秀吉に仕え、山崎の合戦(明智光秀)や賤ヶ岳の合戦(柴田勝家)で突出した武功を示す。文禄の役(韓国)では、文官の石田三成と対立し、秀吉の死後に加藤清正と共に、三成を襲撃し、徳川家康に取りなされます。これが縁で、清正も正則も家康に付き、関ヶ原の合戦(清正は既に死去)では武功により、^{あき}安藝(広島県)国(50 万石)を与えられます。しかし、豊臣秀頼に対する忠誠心が厚く、後に二代将軍秀忠により、些細なことを口実にして、息子・正利は 3 千石の旗本に移されます。大坂夏の陣では、家康が正則の大坂方への寝返りを警戒し、江戸城留守居役として、正則の行動を封じ込めたので、柴田権十郎が身代わりとなって、秀頼に味方したと言われています。

37. 権助狐と今川墓地

所在：今川4丁目29

今川公園の北側にある今川墓地は、元 ^{いまざいけ} 今在家村の住民の墓地です。

現在は、住宅街の真ん中にこのような墓地がある形になっていますが、昔は北東 1km にある今在家村と、細い 1 本の農道によって結ばれていた農地ばかりの寂しい場所でありました。

南海平野線が大正 3 年(1914 年)4 月に、大阪鉄道(現在の近鉄南大阪線)が大正 12 年(1923 年)4 月に開通して、墓地より西側の農地に住宅建設が盛んとなり、戦後は鳴戸川の東側にも住宅が密集して、現在のような墓地になっています。

昭和初期ではまだ、鳴戸川の東側には住宅がなく、夏休みには、子供達の「肝試しの場」でした。

権助狐のお話は、電鉄開通以前の明治中頃までの昔話です。

今在家村の竹松と言う男が、ホロ酔い気分で通りかかった今川墓地で、若者達が相撲をとっていました。腕自慢の竹松がこれを片っ端から投げ飛ばして、翌日に現地に行くと、沢山のお地藏様が倒されていたというお話です。



権助狐(ごんすけきつね)のお話を
聴く子供達(昭和十五年夏の思い出)

人が、狐や狸に化かされて、「石の地藏と相撲を取る話」や、「道に迷い、とんでもない所を歩いていた話」などが当時語りつがれてきました。

38. ^{さい}賽の神社と「とんど行事」

所在：矢田 6 丁目 5

「馬街道」とも呼ばれた 下高野街道 {天王寺－田辺－天美－八下(堺市)－狭山} が南北に貫いている矢田の一角に、^{どうそじん}道祖神があります。村に疫病が入らぬように、また旅人の安全を祈願して、祀られています。



・ とんど行事

昔、近くの川を流れてきた石が、ブクブクと泡を吹いていました。村人が拾い上げると、石が言うには「我は火の神であり、寒いからドンドン火を炊いて欲しい。供養してくれる人には 1 年間息災のご利益を与える」とのことです。

この伝承は人によって少しずつ異なるものの、矢田集落ではこの賽の神を、「火除けと家内安全の神様」として大切にしています。

毎年 1 月 15 日が「とんどの日」で、火の中に差し入れた「書き初め」が高く燃え上がる程、学校の成績が上がるとの古老の話が伝わっています。

戦前の「とんど行事」は大和川のほとりで、1 月 14 日の夜から 15 日の明け方まで、徹夜で行われていましたが、現在では「賽の神の石」

は通常 ^{ほくら}祠の中に納められ、とんど焼きの際に持ち出して火に掛け、とんど焼きが済めば、その石に晒し布を巻き付け、酒をかけて、元に納める神事が続けられています。

「この御利益で戦争中にこの地域に爆弾が落とされなかった」と信じられて、現在も灯明が絶えず、この信仰が継続しているとのことです。

39. ^{さけきみづかこふん}酒君塚古墳

所在：鷹合 2 丁目 5

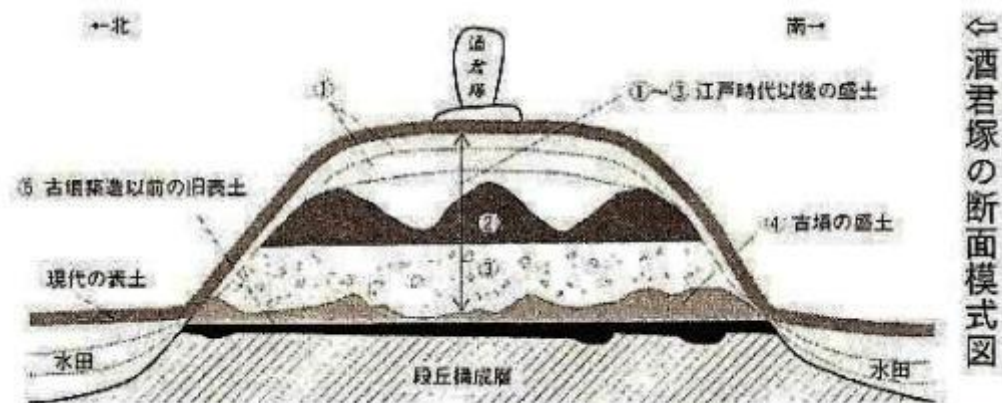
東住吉区東部にある鷹合・桑津・山坂の一帯には、かつて大きな古墳群があったことが、江戸時代の地籍図や古墳にまつわる伝承などから推定されています。

^{さけきみづか}駒川上流右岸にある鷹合の酒君塚古墳は、近年の発掘調査によって、現在の墳丘の盛土下に、かつて平塚と呼ばれた長径 35m 以上、高さ 2m 前後の古墳の墳丘が確認されました。

さらに、出土した^{えんとうはにわ}円筒埴輪から築造時期は四世紀末で、田辺古墳群では最も古い古墳であることも明らかになりました。酒君塚古墳は、御勝山古墳に次ぐクラスの平野川に至る駒川・今川水系の首長墓であり、田辺古墳群の被葬者の頂点に立った倭王権とも関わりの深い人物であったとされています。

酒君については「日本書紀」の^{にんとく}仁徳天皇四三年の条に、「^{よさみのみやけあびこ}依網屯倉阿弭古が、不思議な鳥を捕まえて天皇にさしあげたところ、天皇はその鳥が鷹であることを知られ、百済王の一族である酒君に命じて鷹を養わせた。」とあります。

「大阪遺跡」大阪市文化財協会編（創元社）には、下記の図があります。



「大阪遺跡」大阪市文化財協会編（創元社）から